永野さんが歌詞を考え、日本舞踊の中村花誠（かせい）社中で踊りを作った「水前寺成趣園」の舞歌。9月20日にお披露目となった。今後さまざまなイベント等で披露される予定だ

砂取校区自治協議会の山下敏夫会長（左）と砂取校区第6町内自治会の永野陽子会長（右）

砂取校区（平成25年4月現在）
人口計:9,753人
世帯数:4,784世帯
町内自治会数:9

プロジェクト、校区を越える

往時の賑わいを取り戻すべく、永野さんは地域の人に声をかけ、平成25年3月「水前寺活性化プロジェクト」を立ち上げます。このプロジェクトには、水前寺成趣園周辺の3つの商店街と砂取校区3つの町内に加え、隣の出水校区の3つの町内にも参加を呼びかけました。「出水校区とは、一緒にお祭りをやったりして、もともと、近い存在でした。校区としては別かもしれませんが、水前寺成趣園が元気になれば、地域も元気になる、という環境は同じ。気持ちも一緒だと思ったんです」。

その後、月1回の定例会議を重ね、「参道蚤の市」や「参道ビアガーデン」など、参加住民が思いついたアイデアを次々に実行していきました。出水神社の鳥居を長寿のパワースポットとしてアピールしていこう、というのもその一つ。出水神社とつながるきっかけになり、今では、出水神社が行事の際、地域に声をかけてくれるように。水前寺成趣園と地域とのつながりは、以前より強くなってきました。「ダメだと思わず、まずは、発言してみよう、みんなでやってみよう、をルールにしました。私達は素人かもしれませんが、だからこそ、面白いことも思いつけるのだと思います。地域を元気に、という気持ちは強いですし、だからこそ、続けていけるのではないかと思っています」。

自信と無限大のアイデアでまちを面白く

このプロジェクトの一員として、参道商店街を中心とした地域の情報をインターネットで発信しているのが、出水校区の徳満孝二さんです。「4月に『水前寺観光情報』というサイトを立ち上げました。イベントやお店の情報などを発信しています。今後は、フェイスブックなども活用して発信力を高めたいですね」。

徳満さんがメンバーとして加入したのは、8月。「だんだん周囲の団体も巻き込んだ活動ができるようになってきました。校区の枠も団体の枠も越えて、本当に面白いものができていってるな、と感じています」と語ります。現在、水前寺もやしを活用した食開発や、出水神社の長寿の水の活用、おもてなしイベントなどが企画にあがっているという水前寺活性化プロジェクト。「一つやってみたら、次も大丈夫ってことで、いろいろな企画がでていますよ」と徳満さんも楽しみながら活動しているそうです。

「水前寺は面白い！」と言われる日まで、その活動は続いていきます！

1 水前寺成趣園の新しいパワースポットが参道入口にある出水神社の一の鳥居。明治43年に建立され、100年以上の歴史を持つことから「長寿の大鳥居」と名付けられた
2 砂取小学校の児童と町内自治会が中心となって行った花いっぱい運動。子どもたちが植栽した鉢を商店街に配布し、店先に飾ってもらうことで、おもてなしの雰囲気づくりを行った
3 参道を活用してイベントを開催。毎月第一日曜日に開催される「水前寺参道蚤の市」には、産直野菜や輸入雑貨など、多くの出店がある